

Chapter 4 Deciding what to test

2. Construct definition

- Construct (構成概念): テスト成績から測られると想定される学習者の能力 (※直接観察される訳ではない)
- 言語テストの構成概念
 - ・ concept (概念): かつての教育における構成概念は「知性」とされていた。
 - ・ attitude (態度): 言語学習に対して学習者の持つ positive / negative な態度
 - ・ fluency (流暢さ): 学習者がどの程度よくコミュニケーションが行えるか
- 観測された現象を説明できるような基本的な理論を構築する。
- Kerlinger & Lee (2000): 構成概念 = 2つの方法で科学的検証のために適用される「概念」
 - ①operational definition (操作的定義): 測定方法によって定義される。(「態度」の測定には学習者の言語学習への好ましさの程度がスケールで表される)
- 救護員の選定の例を用いた構成概念を検討
 - ・ [設定] あなたが地方公務員で、シーズンにビーチの救護員を一人雇わなくてはならない。5人の中から1人を1日の午後に行う試験で選定する。
 - ・ 救護員に期待されること、救護員が持つ能力 (pp. 97-98)
 - 関係する4つの構成概念 ①Alertness (注意深さ・俊敏さ), ②Affability (親しみやすさ), ③Strength (強さ・体力), ④Stamina (持久力)
 - ・ ここでは Stamina (持久力) に焦点をあてて検討する。
[持久力の定義]: 疲労なしに困難な身体的活動を長時間の続ける能力
[長時間の定義]: 救護員が海から溺れた人を救出するのにかかる時間
(※生命などが関わる場面では現実で再現されるべき **authenticity** のある試験は行うことができないため、求められる能力の定義を明確にしておくべき。
 - ・ どのような持久力を計測するテストを用いるべきだろうか? - **performance condition** の選定
→まず実際の救助の場面での試験は行えない。また、海での試験も健康・安全に関する法律のため行えない。
 - ⇒ p.99 の例の持久力テストのポイント:

(a) 統制された状況下でのテストである、(b) 溺れた人の代用物の大きさ・重さが明記されている、(c) テストは負荷のかかるものだが、struggle ではない、(d) プールで行われる、(e) 練習はない、(f) それぞれの課題の成功の基準が明記されている。

※ 言語テストにおける **authenticity** (真正性): タスクと受験者の能力が現実の世界を反映しているか。構成概念は現実世界で起こりうる全ての **performance condition** において使用される能力を測定されることが理想であるが、**real life approach** は言語テストでも難しく、現実に近い形で行われる **roll play** などが用いられる。

■ 言語テストの構成概念 - 読解テストの構成概念の計測

■ 2種類のテスト方法

(a) **direct test**: 実際の言語使用が求められる場面で行われるテスト (例: 航空エンジニアの試験のために実際にマニュアルの読解、指示に従って作業、報告書の作成を行う)

⇒コスト・時間がかかり、安全面などに問題があり、実際に行うことはできない

(b) **indirect test**: 現実の言語使用から多くのステップを省き、間接的に求められる言語能力を測定する。

・ Grabe & Stoller (2002):

読解能力の構成概念 = 下位処理能力 (語彙アクセス、統語処理) + 上位処理能力 (テキストのメンタルモデルの構築、背景知識の活性化、談話構造)

(⇒例: 航空エンジニアの読解能力を専門用語への語彙アクセスや行動の連鎖を表す因果関係の理解から見る)

■ 一般的な言語テストとある分野に特化した言語テストでは構成概念が異なる可能性がある。

■ 構成概念はテスト使用の文脈への適用可能性から選択される必要がある。構成概念の決定の記述はテストの目的や妥当性ともつながる。

※ 日本・世界で行われる英語テストは構成概念を反映しているか?

・ **TOEIC**: ビジネス場面での英語使用ができることを目的にしている。これまで用いられてきた2技能(**reading & writing**)のみではビジネス英語使用の構成概念を満たしているとは言えないが、近年 **Speaking & Writing** の導入により、構成概念のカバーが進んでいる。ビジネスでの実用性の高い構成概念を測る問題もあるが、テストテイキングの有無で大きく点数が変わることもあり、正確に構成概念を反映して測定しきれていない点は残る。

・ **TOEFL**: 海外の教育機関での学習・生活能力を測る点で、4技能を測定しており構成概念のカバーは進んでいる。

- 一般的に、構成概念をカバーするとともに、それらを測定するテスト作成の際には、適切なサンプル収集が不可欠である。
- また、確かな構成概念を持ち、それらを反映したテストを作成しても、商業的価値やコストなどの点を満たさないと社会的に広まることができない。